

さきょうくしゃきょうだより



マスコットキャラクター
あかりちゃん

「さきょうくしゃきょう」は社会福祉法人京都市左京区社会福祉協議会の略称です

区社協マスコットキャラクター
あかりちゃんが4年ぶりに
左京区民ふれあいまつりにて
お披露目!!



kyoto
こころつながる
プロジェクト

左京区社協では『みんなのひとりぼっちをなくそう』を
合言葉にだれもが安心して暮らせるまちづくりを目指し
様々な取組をしています。

Topix

- | | | | |
|----------------------|---|-----------------------|---|
| ✓ 新会長就任挨拶…………… | 2 | ✓ 「出会う・ふれ合う活動」…………… | 3 |
| ✓ 「知る・学び合う活動」…………… | 2 | ✓ 「ボランティアセンター活動」…………… | 4 |
| ✓ 「支え合う・助け合う活動」…………… | 2 | | |

就任挨拶

京都市左京区社会福祉協議会
会長 藤田 徳治郎



せんが再開しています。一方で、以前よりもさらに福祉課題が見え難くなってきたように感じております。

生きづらさや困りごとを抱えた人や世帯を、多様な支援者が力を合わせ、地域の中で包み込むように寄り添い支援していく、「重層的な支援」が求められており、社会福祉協議会の存在意義が益々問われてきます。

左京区社会福祉協議会では、住民主体の地域福祉活動によって、最終年となる「左京区地域福祉活動計画」の基本理念、「あなたと私を大切にし、人と人とのつながりを地域に広げるまちづくり」を推進し、年齢や障がいに関係なく、地域住民同士がつながり、支え合いながら、だれもが社会参加できる地域づくりを行って参りますので、これまでも増して皆さまのご支援ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

修学院学区社会福祉協議会・ 修学院第二学区社会福祉協議会

知る・学び合う活動

修学院中学校では、修学院学区社会福祉協議会、修学院第二学区社会福祉協議会、修学院地域包括支援センター、左京区社会福祉協議会が協働して、毎年、認知症サポーター養成講座を開催しています。

この講座は、認知症や高齢者への理解を深め、講座をきっかけに自分達に身近な福祉について興味を持ってもらうことを目的に行われています。

例年、1年生は認知症に関する基礎知識を学び、2年生はフォローアップとして、認知症に関する様々な事例とともに、適切な関わり方などについて学びます。

認知症の方々が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、生徒達自身が身近な地域でできることについて考える機会となっています。

支え合う・助け合う活動



大原地域社会福祉協議会

大原地域社会福祉協議会では、75歳以上の方々を対象に配食サービスを毎月第2金曜日に行っています。

この活動は、手渡しによる配食サービスを通じての安否確認とともに、外出が困難となった方々に対しても地域の方々が直接訪問することでつながりを絶やさないことを目的として実施されています。

お弁当を手渡しされる際には、「最近どうですか」というお声がけに、ご家族の状況やご近所で気になっていること、次に参加したい学区の活動などについてお話をされていました。

このようなやり取りから、お弁当をお配りする過程で人と地域がつながり合い、困っていることに気づき合い、ゆるやかに見守り合う活動へとつながっています。



出会う・ふれ合う活動 ①

錦林東山学区社会福祉協議会

錦林東山学区社会福祉協議会では、錦林保育園とひまわり保育園の年長組さん、地域の子育て世帯をご招待し、『歌とピアノのコンサート』を開催しています。子育て世帯を地域で見守り、応援したいとの思いからこの取組は始まりました。

子ども達を出迎えた地域役員の方々は、園児さんの可愛らしさに目を細めながら、ご自身の子育て話にも花が咲き、会場は和やかな雰囲気であふれていました。

高橋先生によるパネルシアターでは、先生と園児達でアイデアを出し合い、手遊びの中でのバーベキューをしたり、ジュースで乾杯したり、先生の手話を真似しながら手話歌を楽しんだり大盛り上がりの

コンサートでした。

初めは緊張した様子の赤ちゃん達も最後にはニコニコご機嫌になり、コンサート終了後にはママ、赤ちゃん達、地域役員の方々が自然に交流されていました。

「子ども達や子育てを頑張るママ達を応援していきたい」という地域の心温まるお気持ちがとても伝わってくる活動でした。



出会う・ふれ合う活動 ②

上高野学区社会福祉協議会



上高野学区社会福祉協議会では、毎月第2土曜日に上高野小学校において『だんないカフェ』が開催されています。

当初は認知症の方とその家族を対象としたカフェとして開催されていましたが、今では地域に住む方の誰もが気軽に集うことができるサロン活動として開催されています。

10月のサロン活動では、地元クリニックの先生から、「新型コロナウイルス感染症について」の講話があり、「コロナウイルスに関しては今後も注意が必要だが、家に閉じこもっ

て身体機能が低下しないよう注意してほしい」と伝えられ、参加者からは、「家でも体操をしよう」、「感染対策をしながら、今後もみんなで集まって楽しもうね」との声が多くあがっていました。

「だんない」とは、京都の方言で「大事な、大丈夫」という意味だそうです。「ここに集えばだんない、だんない」と聞こえてくるような安心感と笑顔が絶えない地域の居場所になっています。



左京区ボランティアセンター



左京区災害ボランティアセンター設置運営訓練を行いました。

左京区社会福祉協議会では、大規模災害が起きたときスムーズにセンターを立ち上げるため、令和5年9月22日（金）に設置候補地の京都工芸繊維大学で左京区災害ボランティアセンター設置運営訓練を行いました。

「災害ボランティア」とは被災者の生活支援・生活再建など被災者に寄り添うボランティア活動で、左京区災害ボランティアセンターでは発災時に災害ボランティアの受け入れや活動調整などを行います。

訓練に先立って「防災の知識」や「災害ボランティアと災害ボランティアセンターの役割」について事前研修で研鑽を積むとともに、訓練当日は実際に資機材などを設置するなかでの運営訓練を実施しました。

災害が発生した際、被災者へのきめ細やかな支援とともに、被災地の迅速な復旧・復興にあたっての災害ボランティア活動が大変重要視されており、これからも様々な形式での訓練を継続していきます。



左京区社会福祉協議会では、区内で大きな災害が発生した際には、左京区役所、京都市災害ボランティアセンターと連携し、左京区災害ボランティアセンターを運営します。

本紙に関する内容についてご興味・ご関心のある方はこちら。社協に関する情報は、本紙の他、ホームページ・SNSでもご紹介しています。

社会福祉法人 京都市左京区社会福祉協議会 左京区ボランティアセンター

発行責任者 藤田 徳治郎

〒606-8103 京都市左京区高野西開町5番地

京都市左京合同福祉センター 3階

TEL 075-723-5666 / FAX 075-723-5665

E-mail s-csw@sakyoku-syakyo-kyoto.jp

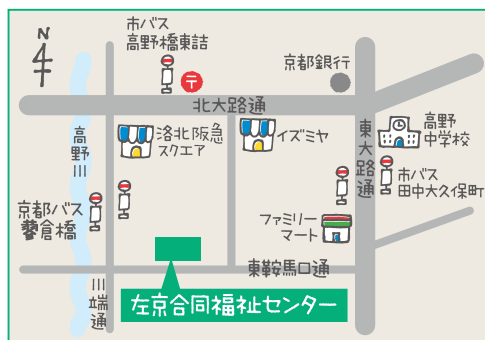
ホームページ <http://www.sakyoku-syakyo-kyoto.jp/>



▲Twitter



▲Facebook



駐車場はありません。公共交通機関でお越しください。